

はじめに

- ※ 世界人口増加等に伴う資源需要の増加により、あらゆる資源の循環利用が求められている
- ※ 化学産業においてGHG排出削減にも貢献する「廃プラスチックの循環利用の促進」は喫緊の課題
- ※ 「あらゆるタイプの廃プラスチック」は貴重な国産資源であり、この有効活用は炭素循環をはじめとして温暖化対策の大きな手段になり、ケミカルリサイクル(CR)はその鍵となる。
- ※ 化学産業は「化学」の潜在力で地球規模の課題解決に必要なイノベーションの中核を担う

あるべき姿 ～真の循環型社会に向けCRのバリューチェーン全体のコーディネーターになる～

[前提] 2050年の社会の姿

- ・線形経済から循環経済へ移行
- ・コロナ後も化学製品は基幹素材
- ・炭素源の化石資源脱却が進展

①CR技術の姿

- ・ゆりかごからゆりかごの実現
- ・同一品質に戻る循環型CR
(油化、ガス化、モノマー化)

②CR社会実装後の姿

- ・廃プラスチックの循環利用拡大
CR: 250万T/Y (2030年150万T/Y)
- ・社会におけるリサイクル材の受容

あるべき姿の実現に向けて (社会実装の本格拡大)

①事業規模の確立

- ・廃プラ収集・処理システム
大規模収集・処理体制の整備
合理的かつ高効率な収集体制
収集&管理データ P. F. 構築

②CR技術の確立

- ・廃プラ種とCR技術マッチング
- ・廃プラ分別&処理技術深耕
- ・支援体制構築
公的財政&産官学連携等

③経済性・市場の確立

- ・消費者、ブランドメーカー価値観醸成
- ・各種リサイクル法のLCA評価比較
- ・認証制度による循環製品の明確化
- ・持続性あるビジネスモデルの構築

- ④海外への展開 : ビジネスベースでの新興国での展開 ・ 二国間対話や国際組織の活用

バリューチェーン全体の社会的イノベーションを起こす協働体制・社会システム構築

経済合理性を持ち国際展開するために国際的に通用する認証制度等の提案

